2023年3月期 第3四半期決算説明資料

第四北越フィナンシャルグループ

【 目 次 】

1．損益の状況	(1)第四北越フィナンシャルグループ 連結	……	1
	(2)第四北越銀行 単体	……	2
2．金融再生法開示債権及びリスク管理債権	第四北越銀行 単体	……	3
3．有価証券の状況	(1)第四北越フィナンシャルグループ 連結	……	3
	(2)第四北越銀行 単体	……	3
4．預金等、貸出金残高	第四北越銀行 単体	……	4
5．投資信託・公共債等預かり資産残高	第四北越銀行 単体	……	4

（注） 1．記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
2．前年同期比、2021年12月末比欄の計数は、表上の数値による計算結果を表示しております。
3．自己資本比率につきましては現在算出中につき確定次第、開示致します。

１．損益の状況

（１）第四北越フィナンシャルグループ　連結

○連結粗利益…その他業務利益が５７億円減益となったものの、資金利益が７３億円、役務取引等利益が１０億円それぞれ増益となったことから、前年同期比２６億円増益の７０４億円となりました。
○経常利益…株式等関係損益が２９億円減少したものの、連結粗利益の増益に加え、営業経費が２２億円減少したことや貸倒償却引当費用が１９億円減少したこと等により、前年同期比４３億円増益の２１３億円となりました。
○親会社株主に帰属する四半期純利益…法人税等税金関係費用が１０億円増加し、前年同期比３７億円増益の１５１億円となりました。

（単位：百万円）

		2023年3月期		2022年3月期	（参考）
		第3四半期	前年同期比	第3四半期	2022年3月期
連結粗利益	1	70,431	2,647	67,784	91,349
資金利益	2	53,503	7,384	46,119	60,396
役務取引等利益	3	15,969	1,050	14,919	21,065
その他業務利益	4	958	△5,787	6,745	9,887
営業経費（△）	5	46,726	△2,272	48,998	65,070
貸倒償却引当費用（△）	6	3,962	△1,931	5,893	7,600
貸出金償却（△）	7	1,396	△185	1,581	1,746
個別貸倒引当金繰入額（△）	8	2,515	467	2,048	3,311
一般貸倒引当金繰入額（△）	9	△198	△1,606	1,408	298
延滞債権等売却損（△）	10	—	△653	653	665
その他（△）	11	249	47	202	1,578
貸倒引当金戻入益	12	—	—	—	—
償却債権取立益	13	447	121	326	501
株式等関係損益	14	331	△2,994	3,325	3,667
その他	15	844	407	437	698
経常利益　【249億円】	16	21,366	4,386	16,980	23,545
特別損益	17	116	244	△128	△203
税金等調整前四半期(当期)純利益	18	21,483	4,631	16,852	23,342
法人税、住民税及び事業税（△）	19	5,289	351	4,938	8,281
法人税等調整額（△）	20	896	688	208	△469
四半期(当期)純利益	21	15,297	3,592	11,705	15,530
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益（△）	22	115	△202	317	385
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益【165億円】	23	15,181	3,794	11,387	15,144

（注）１．連結粗利益＝（資金運用収益－（資金調達費用－金銭の信託運用見合費用））
＋（役務取引等収益＋信託報酬－役務取引等費用）＋（その他業務収益－その他業務費用）
２．【　】は2023年3月期予想値

（参考）　（単位：百万円）

連結業務純益	24	23,594	6,457	17,137	25,817

（注）連結業務純益＝第四北越銀行業務純益＋その他の会社の業務純益＋関連会社業務純益×持分－内部取引

（２）第四北越銀行　単体

○コア業務粗利益は、前年同期比８３億円増益の７０６億円となりました。
・資金利益は、貸出金平残の増加に伴い貸出金利息が増加したほか、投資信託解約損益の増加による有価証券利息配当金の増加及び預け金利息の増加などを主因に前年同期比５６億円増益の５２８億円となりました。
・役務取引等利益は、保険窓口販売などによる資産運用アドバイス収益の増加を主因に前年同期比８億円増益の１０６億円となりました。
・その他業務利益（除く国債等債券損益）は、お客さまの為替変動リスクを回避する効果のあるデリバティブ取引の増加などを主因に前年同期比１９億円増益の７２億円となりました。
○コア業務純益は、コア業務粗利益の増益に加え、人件費が８億円、物件費が預金保険料の減少等を主因に１３億円それぞれ減少したことから前年同期比１０６億円増益の２７６億円となりました。
○経常利益は、ネット信用コストが２６億円減少した一方、国債等債券損益が６３億円、株式等関係損益が２２億円それぞれ減少した結果、前年同期比５０億円増益の１８１億円となりました。
○四半期純利益は、特別損益が１７億円減少したことなどから前年同期比２４億円増益の１１７億円となりました。

（単位：百万円）

		2023年3月期 第3四半期	前年同期比	2022年3月期 第3四半期	（参考）2022年3月期
業務粗利益	1	61,756	2,041	59,715	80,746
（コア業務粗利益）	2	(70,684)	(8,388)	(62,296)	(83,640)
資金利益	3	52,832	5,632	47,200	61,612
うち投資信託解約損益	4	4,821	4,821	—	139
役務取引等利益	5	10,615	827	9,788	14,341
その他業務利益	6	△1,691	△4,417	2,726	4,792
うち国債等債券損益	7	△8,928	△6,347	△2,581	△2,894
経費（除く臨時処理分）（△）	8	43,062	△2,224	45,286	60,026
うち人件費（△）	9	22,823	△872	23,695	31,469
うち物件費（△）	10	17,635	△1,390	19,025	25,261
実質業務純益	11	18,694	4,266	14,428	20,719
（コア業務純益）【252億円】	12	(27,622)	(10,612)	(17,010)	(23,613)
（コア業務純益（除く投資信託解約損益））	13	(22,801)	(5,791)	(17,010)	(23,474)
一般貸倒引当金繰入額（△）①	14	△382	△1,751	1,369	297
業務純益	15	19,076	6,017	13,059	20,422
臨時損益	16	△924	△1,000	76	△2,154
うち不良債権処理額（△）②	17	3,296	△757	4,053	7,153
（貸倒償却引当費用①＋②）（△）	18	(2,914)	(△2,509)	(5,423)	(7,450)
うち貸倒引当金戻入益	19	—	—	—	—
うち偶発損失引当金戻入益	20	—	—	—	—
うち償却債権取立益	21	441	122	319	492
うち株式等関係損益	22	950	△2,287	3,237	3,758
経常利益【192億円】	23	18,151	5,015	13,136	18,267
特別損益	24	△1,872	△1,722	△150	△223
うち固定資産処分損益	25	804	849	△45	△117
うち減損損失（△）	26	2,677	2,616	61	62
税引前四半期(当期)純利益	27	16,278	3,293	12,985	18,044
法人税、住民税及び事業税（△）	28	4,134	771	3,363	6,219
法人税等調整額（△）	29	420	89	331	△317
四半期(当期)純利益【120億円】	30	11,723	2,433	9,290	12,143
（参考）					
ネット信用コスト（△）　14＋17－19－20－21	31	2,473	△2,630	5,103	6,958

（注）１．コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益
２．実質業務純益＝業務粗利益－経費（除く臨時処理分）
３．コア業務純益＝コア業務粗利益－経費（除く臨時処理分）
４．【　】は2023年3月期予想値

２．金融再生法開示債権及びリスク管理債権

「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」（2020年1月24日 内閣府令第3号）が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。

第四北越銀行　単体

○不良債権額は前年同期比１４４億円増加し、１，２６２億円となり、不良債権比率も０．２３％上昇の２．３５％となりました。
○要管理債権が６億円減少したものの、破産更生債権及びこれらに準ずる債権は４億円、危険債権は１４５億円それぞれ増加しました。

（単位:億円）　（参考）（単位:億円）

	2022年12月末	2021年12月末比	2021年12月末	2022年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	59	4	55	54
危険債権	1,160	145	1,015	1,143
要管理債権	41	△ 6	47	31
三月以上延滞債権額	15	2	13	10
貸出条件緩和債権額	26	△ 8	34	21
小計　（A）	1,262	144	1,118	1,229
正常債権	52,447	1,028	51,419	52,334
債権額合計　（B）	53,709	1,172	52,537	53,564
不良債権比率　（A）÷（B）	2.35%	0.23%	2.12%	2.29%

３．有価証券の状況

○欧米の金融引き締め姿勢強化に伴う世界的な金利の上昇を背景に、円建債券や外貨建債券の価格が下落したことなどから、第四北越フィナンシャルグループ連結の有価証券の評価差額は８４８億円の含み損、第四北越銀行単体の有価証券の評価差額は７６９億円の含み損となりました。

（１）第四北越フィナンシャルグループ　連結

（単位:億円）　（参考）（単位:億円）

	2022年12月末				2021年12月末				2022年9月末			
	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
満期保有目的	16	△0	—	0	17	0	0	0	16	△0	—	0
その他有価証券	26,105	△848	446	1,294	25,454	562	787	225	24,803	△619	421	1,041
株式	1,387	367	403	35	1,373	428	463	34	1,313	332	370	37
債券	15,101	△454	4	459	15,495	25	78	53	14,756	△228	10	239
その他	9,615	△761	37	799	8,584	108	245	137	8,733	△723	40	764
うち外国証券	5,416	△548	1	550	4,101	92	122	29	4,689	△530	1	531

（２）第四北越銀行　単体

（単位:億円）　（参考）（単位:億円）

	2022年12月末				2021年12月末				2022年9月末			
	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
満期保有目的	16	△0	—	0	17	0	0	0	16	△0	—	0
その他有価証券	26,000	△769	504	1,273	25,335	617	847	229	24,697	△550	482	1,032
株式	1,282	430	458	27	1,254	470	496	25	1,206	384	414	30
債券	15,101	△437	10	447	15,495	45	98	53	14,756	△210	22	232
その他	9,615	△762	36	798	8,584	101	252	151	8,733	△724	44	769
うち外国証券	5,416	△547	2	549	4,101	94	124	29	4,689	△529	1	531

※時価変動リスクを低減する目的で金利スワップによる繰延ヘッジを行っており、評価損益は次のとおりです。

（単位:億円）　（参考）（単位:億円）

	2022年12月末	2021年12月末	2022年9月末
	評価損益	評価損益	評価損益
金利スワップ	259	△69	168

４．預金等、貸出金残高

第四北越銀行　単体

○貸出金残高は、前年同期比１，２００億円増加し、５兆２，２１０億円となりました。
・県内事業性貸出がこれまでの新型コロナウイルス関連の積極的な資金繰り支援の反動や、資材価格の高騰等を受けた設備投資の先送りなどを主因に減少したものの、県外事業性貸出が大企業向けを中心に増加したほか、消費性貸出も商品・サービスの拡充や非対面チャネルの強化によるお客さまの利便性向上に積極的に取り組んだことを主因に増加しました。
○譲渡性預金を含めた預金等残高は、前年同期比１，２９７億円増加し、８兆５，０１６億円となりました。

（単位：億円）　（参考）（単位：億円）

	2022年12月末	2021年12月末比	2021年12月末	2022年9月末
貸出金残高	52,210	1,200	51,010	52,037
県内事業性貸出残高	17,551	△ 148	17,699	17,253
うち中小企業向け貸出残高	14,616	△ 180	14,796	14,382
県外事業性貸出残高	11,806	1,521	10,285	11,248
うち中小企業向け貸出残高	5,074	559	4,515	4,916
消費性貸出残高	14,317	535	13,782	14,135
公金貸出残高	8,535	△ 707	9,242	9,400
預金等残高	85,016	1,297	83,719	84,237
うち県内預金等残高	83,180	1,281	81,899	82,376
うち個人預金等残高	56,918	1,229	55,689	56,012

（注）預金等残高＝預金＋譲渡性預金

５．投資信託･公共債等預かり資産残高

第四北越銀行　単体

○預かり資産残高は前年同期比２０億円増加し、８，４２７億円となりました。
　投資信託が１７９億円、公共債が８２億円それぞれ減少したものの、保険が２８１億円増加しました。

（単位：億円）　（参考）（単位：億円）

	2022年12月末	2021年12月末比	2021年12月末	2022年9月末
預かり資産残高	8,427	20	8,407	8,616
投資信託	1,693	△ 179	1,872	1,717
公共債	723	△ 82	805	750
保険	6,010	281	5,729	6,148
（参考）第四北越証券	4,013	210	3,803	3,933

以　上